

2023 年度野球規則改正の要点解説

日本高等学校野球連盟
審判規則委員会

注：（ ）内数字は今回改正された3項目の符号

(1) 5.11 を次のように改めた。

- ① 本文が削除された。オフィシャル・ベースボール・ルールズ（いわゆる原文）に記述されていないことから、この文が削除された。
- ② (b) 項を削除し、新たに追記された。

MLB ナショナルリーグでも指名打者ルールが正式に採用されたため、指名打者ルールを採用しているリーグのチームと、それを採用していないリーグのチームが試合をするときの取り決め事項が削除され、新たに“(いわゆる)大谷ルール”と呼ばれる規定が記載された。新たに採用された規定は、先発投手自身が指名打者として打つ場合、5.11(a)により別々の2人として考えることができることとした。

なお、高校野球では、指名打者ルールは採用していない。

指名打者について、先発投手に限り、チームの打順表に10人のプレーヤーを記載し、先発投手および指名打者に同じ名前を記載して、その役割を果たせる規則が追加された。

投手と指名打者を兼務する場合の内容は、次のとおり。

- ・ 打順表に10人のプレーヤーを記載し、1人は先発投手として、もう1人は指名打者として2度同じ名前を記載する。
- ・ 投手を交代しても、指名打者として続けて出場することができるが、再び投手として出場することはできない。
- ・ 指名打者を交代しても、投手として続けて出場することができるが、再び指名打者として出場することはできない。
- ・ 投手と指名打者を同時に交代した場合、その後の交代したプレーヤーは、投手と指名打者の両方を兼務することはできない。
- ・ 本規定を採用するかどうかは、最初の打順表で記載するとき限りである。
- ・ 投手が指名打者として打つかまたは走者になったとしても、チームに対する指名打者の役割は消滅しない。
- ・ 指名打者が投手の役割を引き受けた場合にも、その役割は消滅しない。
- ・ プレーヤーが投手として降板し投手以外の守備に移れば、それ以降指名打者の役割は消滅する。

(運用での注意点)

- ・指名打者を退き、引き続き投手として出場している場合、チームは指名打者を解除することができない。→ 投手として再び打順に入ることを禁止
- ・1回表、危険球退場（プロ野球のみ）となった場合、指名打者としても出場できなくなる。→ この場合、1度も打席に立たず指名打者に代打を出すことになる。

③ MLB ナショナルリーグでの指名打者制の採用により、本項の記載が不要となり、【注1】と【注2】を削除、【5.11注】を5.11(b)の後ろに配置された。

【注1】【注2】でプロ野球およびアマチュア野球の指名打者ルールの取り扱いを記載していたが、プロ野球およびアマチュア野球を問わず「所属する団体の規定に従う」こととして、【5.11注】にまとめられた。

(2) 7.01(e) を次のように改めた。

天候状態による場合、正式試合前に打ち切られても、サスペンデッドゲームとすることができるように改められた。

(3) 7.02(a) を次のように改めた。

① (5) 天候状態により試合が打ち切られた場合、正式試合の成立前であっても、行われた回数に関係なくサスペンデッドゲームとすることができることになった。

② 7.02(a)(5)の改正に伴い【付記】が削除された。

本項の(1)(2)(6)の理由で終了となった試合については、正式試合とならなければサスペンデッドゲームとすることはできない。また、本項の(3)(4)(5)の理由で打ち切りを命じられたときは、行われた回数に関係なくサスペンデッドゲームとすることができる。

なお、高校野球では、サスペンデッドゲームは採用しておらず、2022年度より採用された「継続試合の取り扱い」(高校野球特別規則 22)で運用をしている。

以 上